

災害に備えて通信訓練

札幌建協と市 大地震を想定



災害対策本部への道のりを再確認した

札幌建設業協会は10日、札幌市との合同通信訓練とBCP（事業継続

計画）に基づく事務局の災害対応訓練をした。通信訓練は市と結んだ大規

模災害時における土木施設などの応急対策協定に基づき、電話やFAXで被災状況を把握し、協会幹事社へ対応を要請。災害対応訓練では幹部らの安否などを確認した。合同通信訓練は、午前8時に札幌近郊で震度7の大地震が発生したとの想定で進めた。市建設局から東区や南区、手稲区で下水管や地下鉄シールドの破損、道路陥没、橋梁崩落などが発生しているとの報告を受け、協会事務局が各区の幹事社に対応を指示し

た。災害対応訓練では、岩田圭剛会長や坂敏弘副会長ら幹部と事務局員の安否を電子メールなどで確認。送信後10分以内に全員から無事との連絡があった。その後、事務局員が災害対策本部となる北海道建設会館に無事に集まることができた。洪水ハザードマップなどを使い安全な道のりを机上確認した。村井悟専務理事は「訓練は繰り返し行うことが重要。これからも続けた」と話していた。

震度7の地震想定しBCP訓練

安否確認 迅速に実施

札幌市と合同通信訓練も

札幌建設業協会

札幌建設業協会（岩田圭剛会長）は10日、道建設会館で協会事務局によるBCP訓練と、札幌市と合同の通信連絡訓練を行った。合

同訓練では、市の建設局や交通局などと連絡調整し、被災地で会員企業の3社が対応するシナリオを進められた。協会のBCP訓練では、協会事務局職員や岩田会長、坂敏弘副会長が参加。

また、土木施設の大規模災害協定を協会と締結した札幌市との合同訓練では、



地震マップを使い、安全な連絡路を確認する事務局職員

10日午前8時、札幌市内で震度7の地震が発生したとの想定で、スマホを使っての安否確認が行われた。

安否確認後は、事務局職員で地震マップやハザードマップを使用して、自宅から道建設会館までの安全な連絡路を各自で確認し終了した。

シナリオに準じて通信連絡を取り合った。訓練では地震発生後、札幌市から協会に災害発生連絡が入り、協会事務局か

ら会員企業が組織した応急対策業務体制の各地区の幹事社に現地での対応を指示。その後、会員企業の応急復旧の状況を事務局が市

に連絡する訓練が続けられた。なお、協会では訓練結果を踏まえ、13日にフォローアップ会議の開催を予定し

ている。当日は、BCP策定企業の担当者が集まり、訓練の成果や今後の訓練内容などについて協議する。

1.12.11

北海道通信

1.12.11

北海道建設新聞